

既刊案内 (特集・主要記事)

[11月号]

◎[シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.24] 茨城大学 都市システム工学科 准教授 藤田昌史氏を訪ねて 中部太平洋 環礁国を水没から守る 鍵は海面上昇より水質問題…水道ネットワーク通信 有村源介 ◎人を大切に、施工能力等の高い専門工事業の適正な評価を目指して…国土交通省 ◎河川水位情報がまとめて見られるようになりました…国土交通省 ◎日本最大級の地下空間のデジタル地図を初公開…国土交通省 ◎平成29年度における下請代金支払遅延等防止法の運用状況及び下請取引の適正化への取組等(概要版)…中小企業庁 ◎地方公共団体における耐震改修計画の策定状況及び耐震改修等に対する補助制度の整備状況について…国土交通省 ◎建築物リフォーム・リニューアル調査報告…国土交通省 ◎平成29年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査の結果(速報値)…環境省 ◎冬季の省エネルギーの取組について…省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議決定 ◎建築物ストック統計の公表について…国土交通省 ◎海外展開戦略(環境分野及びリサイクル分野)の策定について…環境省 ◎福岡県・大分県・秋田県で統計開始以来最大の被害…平成29年の水害被害額の(暫定値)を公表…国土交通省 ◎「明日への道標」戦いの場にも愛がある～赤十字の恩人 アンリ・デュナン～…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京ブラリロボ」吉原から山谷方面へ…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎「特別連載」ウィーン旅の赤恥 笑辞典(第5回)…弁護士 野平大魚 ◎鋼管技術フォーラム2018 in 四国…(一社)鋼管技術研究会 ◎新・撮った写真が5万枚!?…IDE研究所 いでこうじ ◎「見てきたような話⑪」内側に向く女性のおしゃれ…低空飛行機 ◎建築着工統計(2018年8月)…国土交通省 ◎新製品紹介 ◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子

[12月号]

◎[シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.25] 国際連合大学 サステイナビリティ高等研究所リサーチフェロー 真砂佳史氏を訪ねて SDGs(サステイナビリティ デベロップメント ゴールズ)実現の一翼を担う…水道ネットワーク通信 有村源介 ◎公共建築工事の発注者が適切に役割を果たすために…国土交通省 ◎2018年度冬季の電力需給対策について…経済産業省資源エネルギー庁 ◎環境生物多様性の10年「グリーンウェイブ2018」実施結果とりまとめ…国土交通省 ◎克雪体制づくりアドバイザー派遣制度を創設…国土交通省 ◎平成31年度概算要求時における環境保全経費の取りまとめについて…環境省 ◎平成30年度「ウォームビズ」について環境省 ◎気候変動に関する政府間パネル(IPCC)「1.5℃特別報告書」…環境省 ◎平成29年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書について…環境省 ◎「次世代住宅プロジェクト2018(第2回)」の決定…国土交通省 ◎I-Constructionロゴマークを決定しました！…国土交通省 ◎平成29年度における家電リサイクル実績について…環境省 ◎学校での水害避難訓練を実施しやすく…国土交通省 ◎太陽光発電のリサイクル・適正処分等に関する検討チームの取りまとめについて…環境省 ◎「明日への道標」一にも二にも肝っ玉～商人になった清水次郎長～…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京ブラリロボ」駒澤大学、駒沢オリンピック公園から長谷川町子、向井潤吉美術館へ…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎★いま注目のLIXILショールーム-PART 1-…月刊コア編集部 ◎オーエヌ工業におけるステンレス製管継手の現状と今後の課題…取締役技術本部長 芦田裕士 ◎鋼管と共に歩んだ50年(第1回)…IDE研究所 ◎「見てきたような話⑫」#Me Tooも行き過ぎると…低空飛行機 ◎「特別連載」ウィーン旅の赤恥 笑辞典(第6回)…弁護士 野平大魚 ◎建築着工統計(2018年9月)…国土交通省 ◎新製品紹介 ◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子



編集雑記

民俗学では民衆の生活様式をハレとケで表現している。漢字にするとハレは晴れ、ケは曇りでハレは非日常、ケは日常を意味する。晴れ着、晴れ姿、晴れ舞台といった言葉があるようにハレは祝祭的な行事の総称だ。正月や新年会はハレを象徴する歴史的な年頭の風習といっていいただろう。

ケは水田稲作を中心とする農耕民の生活に由来している。かつて自給用の穀物は稔稲、稲や麦の作付けは毛付け、普段着は褌着と呼ばれていた。一毛作、二毛作、朝餉、夕餉などもケの名残りだ。稲は秋に収穫され、刈り取られた田はケが枯れた状態としてケガレと見做された。ケガレから再生するハレの儀式として五穀豊穡を祈願する豊穡祭が誕生する。

ハレとケの概念は民俗学の創始者である柳田國男が1935年に上梓した『郷土生活の研究法』ではじめて提起した。東京帝国大学法科大学で農政学を学び、農商務省に勤務した柳田は飢饉や間引きなどの悲惨な情況に直面して「なぜに農民は貧なりや」とみずから問いかける。農政学の限界を感じて「学問は生活上の実際の要求に役立つようでは始める甲斐がない」と官界を去り、農村の現実の悩みに応えようとする経世済民の学を追求した。

戦後は私財を投じて研究所を設立し、民間伝承の調査を通じて民衆の生活文化を探究する民俗学の原型を確立した。柳田はハレとケの過去と現在を比較して未来の生活を読み解こうとした。歴史の主人公は一部の権力者ではなく名もなき民衆であると省察した柳田にわたしは共感する。(高倉)

給排水・衛生・環境設備の総合誌

月刊「コア」第350号

平成31年1月1日発行 定価1,000円(本体926円)

発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13

(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社

TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884